

外来種

- ・ 特定外来生物
- ・ 世界の侵略的外来種ワースト 100
- ・ 日本の侵略的外来種ワースト 100
- ・ 生態系被害防止外来種
(重点対策外来種)



成体
実物は約 18 cm



オタマジャクシ

ウシガエル

アカガエル科

全長(オタマジャクシ):約 15 cm

食用にアメリカから輸入された大型のカエル。池沼や川などに生息し、「ヴォ～、ヴォ～」と牛のような声で鳴く。口に入る大きさで動くものには積極的に襲い掛かり、在来のカエルや魚、時には野鳥なども捕食する。繁殖力も旺盛で、期間は5～9月と長く、1度に6千～4万個もの卵を産む。定着すると環境への被害が甚大となる。今回の捕獲数は少なかったが、水中にはまだたくさんのオタマジャクシが泳いでいた。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・ 特定外来生物
- ・ 世界の侵略的外来種ワースト100
- ・ 日本の侵略的外来種ワースト100
- ・ 生態系被害防止外来種
(重点対策外来種)



オオクチバス

サンフィッシュ科

全長：30～50 cm

北アメリカ原産で、池沼、湖、川など様々な水域に生息している。主に釣り目的で違法に放流され、全都道府県に定着している。捕食性が強く、小魚やエビなどを食べ在来種を激減させてしまう。1回の産卵で5千～4万3千個もの卵を産むこともあり、1度放流されただけでも環境への被害が甚大となる。今回の調査では40 cm超の大型から今年生まれの稚魚まで様々なサイズが捕獲され、繁殖していることが明らかとなった。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・ 特定外来生物
- ・ 世界の侵略的外来種ワースト100
- ・ 日本の侵略的外来種ワースト100
- ・ 生態系被害防止外来種
(重点対策外来種)



カダヤシ

カダヤシ科

全長:3 ~ 5 cm

ボウフラを食べることから『蚊絶やし』と名付けられ、蚊の繁殖を防ぐためにアメリカなどから輸入された。姿はメダカに似ているが、メダカよりも環境汚染に強く、人工的な水路でも繁殖可能であるため急速に国内での分布を拡大している。食欲旺盛で、メダカやその他の在来魚の卵、稚魚、昆虫などを捕食する。



千駄堀池での警戒レベル

外来種



カムルチー

タイワンドジョウ科
全長:70 ~ 80 cm

中国、朝鮮半島原産で、釣りの対象魚として人気がある大型の淡水魚。日本には朝鮮半島産のものが放流され、全国の池沼、川などで野生化したと考えられる。太い円筒状の体で、頭部がヘビに似ていることから別名『スネークヘッド』とも呼ばれる。在来の魚、昆虫、カエルなどが捕食され減少してしまう。今回の調査では8匹を捕獲しているが、まだ複数生息していると思われる。



千駄堀池での警戒レベル

外来種



カワリヌマエビの仲間

ヌマエビ科
全長:2 ~ 3 cm

中国、韓国原産で、観賞用や釣りの餌として輸入されたものが放され野生化したとされている。ヨーロッパやハワイなどにも定着していることから、環境的適応力が高いと考えられている。このエビと一緒に、ヒルミミズというエビにつく寄生虫も日本に侵入している。



千駄堀池での警戒レベル

外来種



クサガメ

イシガメ科

甲長：20～30 cm

朝鮮半島や中国から 18 世紀末ごろに持ち込まれ始め、その後もペット用に輸入されたものが捨てられるなどして全国に定着。体や甲羅は黒味が強く、若い個体は顔に黄色の模様がある。ニホンイシガメ（在来種）と交雑し、雑種が生まれてしまう可能性がある。ニホンイシガメは千駄堀池でも過去に確認されているため、注意が必要。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

・世界の侵略的外来種
ワースト 100



コイ

コイ科

全長:40 ~ 80 cm

日本在来のコイは琵琶湖など限られた地域にのみ現存し、その他の池沼や川で見られるコイは飼育や養殖、または海外から輸入された個体が放され野生化したもの。池底のドロを巻き上げながらエサを探すため水がにごり、貴重な水草も生育することができなくなる。雑食性で、エサとなる貝類も激減してしまう。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・日本の侵略的外来種ワースト 100
- ・生態系被害防止外来種
(重点対策外来種)



タイリクバラタナゴ

コイ科タナゴ亜科
全長:4 ~ 8 cm

中国、台湾原産で、食用目的に輸入した魚に紛れて非意図的に持ち込まれた。また観賞魚や釣りの対象魚としても人気がある。全国の池沼、川などに分布し、在来のタナゴの仲間を駆逐、または交雑するなどして地域の生態系を乱している。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・ 特定外来生物
- ・ 世界の侵略的外来種ワースト100
- ・ 日本の侵略的外来種ワースト100
- ・ 生態系被害防止外来種
(緊急対策外来種)



ブルーギル

サンフィッシュ科
全長:10 ~ 25 cm

北アメリカ原産で、釣り目的で放流されるなどして全国の池沼、湖、川など様々な水域に定着。雑食性で、水生昆虫や小魚、エビ、貝類、水草などを食べてしまう。1回の産卵で2万1千~3万6千個もの卵を産むこともあり、1度放流されただけでも環境への被害が甚大となる。千駄堀池にはまだ大量の稚魚が生息しており、早めに駆除（池の天日干しなど）を行わないと池の生態系が崩壊してしまう可能性がある。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・世界の侵略的外来種ワースト 100
- ・日本の侵略的外来種ワースト 100
- ・生態系被害防止外来種
(緊急対策外来種)



ミシシッピ アカミミガメ

ヌマガメ科

甲長：23 ～ 28 cm

北アメリカ原産で、1950年代からペット用に輸入され始めた。幼体は5 cm程度でおとなしいが、成長するにつれ徐々に攻撃的になる。寿命は20～30年と長生きすることから、飼いきれなくなり捨てる人が続出し、全国の池沼、川などに大量に遺棄され定着した。水草を食べ、在来種が住みづらい環境にしてしまう。目の後ろの赤いラインや、顔、手足、尾に薄黄色の模様が特徴。



千駄堀池での警戒レベル

外来種

- ・生態系被害防止外来種
(その他の定着予防外来種)



リバークーター

ヌマガメ科

甲長：詳細不明

原産は米国東部～南部～メキシコ北東部とされるが詳細は不明。安価なペット用のカメとして輸入され、遺棄されたものと思われる。ミシシippアカミミガメに似るが、目の後ろに赤いラインは無く、爪が長い。またこちらの方が草食性が強く、水草を食べつくしてしまう危険がある。国内ではまだ繁殖例は確認されていないが、原産国の気候が日本と近いため、定着する可能性がある。



千駄堀池での警戒レベル